

2018年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2018年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2019年5月30日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

そのうちの事業活動収支について概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計357.3億円、事業活動支出計336.6億円となりましたので、基本金組入前当年度収支差額は20.7億円の収入超過となりました。

事業活動別に見ますと、教育活動収支差額は15.0億円の収入超過、教育活動外収支差額は、収益事業部会計からの0.5億円を加え5.1億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は20.1億円の収入超過となりました。経常的な収支を除く特別収支差額は0.5億円の収入超過となり、経常収支差額20.1億円と特別収支差額0.5億円の合計が、基本金組入前当年度収支差額20.7億円となります。

科目別に主なものを見ますと、授業料等の学生生徒等納付金272.5億円は、大学地球社会共生学部の年次進行効果や学費改定の年次進行効果などにより、前年比1.7億円の増収となりました。一方、寄付金（施設設備寄付金も含む）8.1億円は前年比3.3億円の減収、補助金（施設設備補助金も含む）30.7億円も前年比3.1億円の減収となっております。人件費194.5億円は、前年比0.6億円の増加となりました。教育研究経費116.5億円及び管理経費22.1億円には、ICT教研系システム費用5.3億円、2019年度ICT基幹ネットワーク更改費用のうち2018年度実施分4.4億円、大学図書館業務委託費用2.1億円、大学新設学部広報費用1.4億円などが含まれ、教育研究経費は前年比6.3億円の増加、管理経費も前年比0.6億円の増加です。

このほか、資金収支計算書に計上する主なものとして、施設関係支出で、中等部校舎建替工事10.7億円、設備関係支出で、中等部礼拝堂・図書館棟什器備品1.6億円、2019年度ICT基幹ネットワーク更改設備のうち2018年度実施分0.7億円、大学図書（資産）0.7億円などがあります。また学生、生徒、児童、園児の安全安心のため、青山・相模原の両キャンパスにおける校舎等の天井耐震補強工事（3カ所）計1.6億円も実施いたしました。

以上のように2018年度決算は、寄付金、補助金などの収入が減少し、教育研究経費などの支出が増加して、前年に比べて収支差額が減少しましたが、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額とも20億円ほどの収入超過を確保することができました。

2019年4月1日には大学相模原キャンパスにコミュニティ人間科学部が開設されました。青山キャンパスでは、中等部校舎建替工事がいよいよ完成を迎えます。また、大学新図書館の建築や幼稚園の園舎建替えなども鋭意進めてまいります。一方で、女子短期大学が2019年度以降の学生募集を停止することにより、収入の減少が見込まれており、「万代基金」等の寄付金の拡大、外部資金の積極的な導入などによる、学生生徒等納付金以外の収入の拡大がますます重要になってまいります。厳しい状況が想定される中であっても、引き続き、質の高い教育研究の実現、財政基盤の強化に努めてまいります。

以上